



日本美容皮膚科学会
Japanese Society of Aesthetic Dermatology

第43回 日本美容皮膚科学会総会・学術大会

The 43rd Annual Meeting of the Japanese Society of Aesthetic Dermatology

スポンサードセミナー 10

日時

2025. 8/16 [SAT] 13:50-14:50

会場

F会場 (大阪国際会議場 12F グラントック)

美容皮膚科医必見！ 痤瘡治療UP-TO-DATE

～健やかな肌をつくるクラシエ漢方～

座長

皮膚科 眼科 くめクリニック 院長 **久米 昭廣** 先生

演題

1

『尋常性痤瘡・酒皰治療ガイドライン2023』と
漢方製剤の活用法

演者

こばやし皮膚科クリニック 副院長 **小林 美和** 先生

演題

2

美容医療における漢方製剤の活用法

演者

順天堂大学医学部 皮膚科学講座 講師 **木村 有太子** 先生

共催：第43回日本美容皮膚科学会総会・学術大会／クラシエ 薬品株式会社

演題
1

『尋常性痤瘡・酒皰治療ガイドライン2023』と漢方製剤の活用法

演者 こばやし皮膚科クリニック 副院長 **小林 美和** 先生



日本皮膚科学会により公表された『尋常性痤瘡・酒皰治療ガイドライン2023』では、痤瘡の治療を「急性炎症期（原則3ヵ月まで）」と「維持期」に分け、各時期に応じた治療方針が示されている。急性炎症期には重症度別の治療を行い、複数の薬剤や配合剤による併用療法が推奨されている。一方、維持期には抗菌薬は使用せず、アダパレンや過酸化ベンゾイル(BPO)の単剤あるいは配合剤の使用が推奨されている。

しかし、これらの標準治療を行なっても、継続できない症例や症状コントロールが難しい症例も少なくない。例えば、外用薬の刺激症状や接触皮膚炎により使用継続が困難な場合、内服抗菌薬を

中止すると症状が悪化する場合、あるいは維持療法中に再燃を繰り返す場合などが挙げられる。このような難治例においては、治療の選択肢の一つとして漢方薬の活用が考慮される。

ガイドラインにおいて、十味敗毒湯をはじめとする漢方薬は炎症性皮疹、面皰に対して推奨度C1またはC2として位置づけられており、痤瘡の代替治療・追加治療の有力な候補となり得る。

本講演では最新のガイドラインに基づき、標準治療における十味敗毒湯の活用ポイントについて、自験例を交えながら解説する。

ご略歴

1996年	香川医科大学卒業	2004年	医学博士
	産業医科大学皮膚科入局	2005年	産業医科大学皮膚科 講師
1998年	産業医科大学皮膚科 専修医	2014年	こばやし皮膚科クリニック勤務 副院長
2001年	産業医科大学皮膚科 助手		

演題
2

美容医療における漢方製剤の活用法

演者 順天堂大学医学部 皮膚科学講座 講師 **木村 有太子** 先生



美容医療への関心が高まる中、特に「美肌」や「痤瘡」に関する相談が増えており、日々の診察では女性らしい健康的な肌の土台を整えることを重視している。美容皮膚科医が考える肌のケアには、「直接的なケア」と「インナーケア」の2つのアプローチがある。「直接的なケア」にはスキンケアや美容施術などが含まれ、「インナーケア」には栄養バランス、運動、睡眠、腸内環境の改善などが挙げられる。さらに、漢方薬も肌のケアの一手として、重要な役割を果たす可能性を秘めている。

十味敗毒湯は10種類の生薬から構成される漢方薬で、尋常性痤瘡や蕁麻疹、湿疹など、皮膚科領域で幅広く用いられている。十味敗毒湯に配合される「桜皮」はヤマザクラの樹皮が基原の生薬で

あり、近年、皮膚線維芽細胞のエストロゲン産生増加作用、皮脂合成抑制作用が報告されており、これらの作用は肌のケアの観点からも非常に重要であると考えられる。

本講演では、美容皮膚科医の視点から考える桜皮配合十味敗毒湯の有用性とその活用法について、自験例を交えながら紹介する。

ご略歴

2003年	獨協医科大学医学部卒業	2013年	順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科 准教授
2003年	順天堂大学医学部附属順天堂医院 研修医	2016年	ドイツ ミュンスター大学病院皮膚科 留学
2006年	順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科 専攻生	2016年	順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科 准教授
2007年	順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科 助手	2021年	順天堂大学医学部 皮膚科学講座 講師（非常勤）
2012年	医学博士、順天堂大学医学部附属浦安病院皮膚科 助教		